

PATENT Attorney[®]

パテント・アトニー

弁理士は知的財産権を社会に活かすパートナー

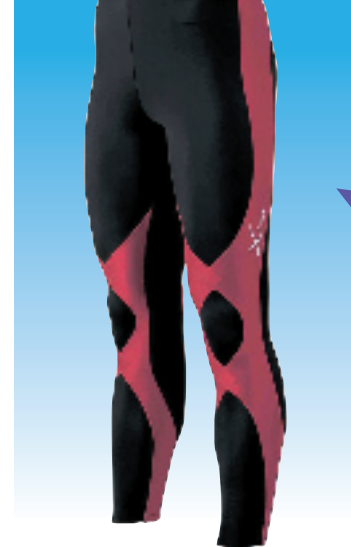
■特許庁からのお知らせ
■日本弁理士会からのお知らせ



特集
2004「弁理士の日」
記念事業開催
ヒット商品を支えた知的財産権
テーピング効果を備えた高機能ウェア
「ワコールCWX」

ワコールのCWXは、スポーツ時のコンディショニングを整えるために開発された高機能ウェアのブランドである。1991年に最初のモデルを発売し、コンディショニングウェアという新しい商品ジャンルを確立した。米大リーグで活躍するイチロー選手をはじめとする、さまざまなジャンルのトップアスリートをユーザーとしていることでも知られる。

最初のアイテムの一つであるHZO-579は、このブランドの核を成すロングセラーとなっている。その特徴は、膝関節の動きをサポートすることに重点をおいた機能だ。開発のきっかけは、一人の女性社員がスキーで膝を痛め、テーピングの効果を知ったことだった。関節の負担を軽減するテーピングには専門知識が必要なことから、誰でもテーピングの効果を得られるウェアをつくれなにか、という発想のもと商品が生まれた。



テーピングは、粘着性のあるテープをボイントに貼り付ける。衣料でこの効果を出すためには、着用した際にテーピング効果を得るサポート部分にテープに相当する素材が確実にフィットし、適切な圧をかけ、動いても着崩れないことが条件となる。商品の構成には、当然ながら、テーピング効果を出すラインのカッティング位置と適切な圧条件は何か、更にはストレッチ素材の縫製には苦労したという。ここで活かされたのが、ガードルのパターン設計技術と縫製技術だった。

ヒット商品を支えた知的財産権
テーピング効果を備えた高機能ウェア
ワコールCWX
特許第1919040号 特許第3012819号
意匠登録第1021887号 商標登録第4640682号

VOL. 35

特許庁からのお知らせ 新職務発明制度説明会の開催について

本年の通常国会において職務発明制度（特許法第35条）の改正が行われました。改正法は2005年4月から施行されます。

特許庁では、この新職務発明制度に関する説明会を9月から12月にかけて全国10地域で開催します。説明会では、企業等において職務発明の対価の支払いに関する規程等を整備される際にどのような手続きを行えばよいのかについて参考となる手続事例集を配布し、説明を行います。参加費は無料です。この機会に、ぜひご参加いただきますようご案内いたします。

説明会の日程等詳細については、特許庁ホームページ（<http://www.jpo.go.jp/indexj.htm>）の「産業財産権イベントカレンダー」又は「特許庁の取り組み（説明会・セミナー・シンポジウム・フェア）」（<http://www.jpo.go.jp/torikumi/index.htm>）をご覧ください。ご不明点がありましたら、特許庁総務課地方班（03-3581-1101（代）／内線2107）までお問い合わせ下さい。

※都合により、「弁理士風土記」「知的財産権立ち見席」「知的財産権豆知識」は休載いたします。

パテント・アトニー
平成16年9月22日発行 第35号 無断転載禁止
編集／日本弁理士会広報センター
発行／日本弁理士会
東京都千代田区霞が関3-4-2 〒100-0013
電話 03-3581-1211（代）
FAX 03-3581-9188
<http://www.jpaa.or.jp>
「PATENT ATTORNEY」は「弁理士」のことです。

るには試作品を着用した実験を行い、データを分析し、機能をデータで実証するというくり返しで開発は大変でした。」とワコールウエルネス事業部の小山由朗CWXチームマネージャーは語る。CWXは、下着メーカーだからこそ開発できた新しい機能を備えた商品ジャンルだったのである。

（取材協力 株式会社ワコール）

7月1日は



日本弁理士会からのお知らせ

- 「特許・意匠・商標なんでも110番」
特許、実用新案、意匠、商標等について、弁理士が無料で相談に応じます。（月～金）
- 弁理士の仕事や特許制度を易しく解説したパンフレット（無料）やビデオ（有料）があります。
- お問い合わせは下記まで
日本弁理士会（広報課） Tel 03-3519-2361
日本弁理士会大阪分室 Tel 06-6775-8200
日本弁理士会名古屋分室 Tel 052-211-3110



JPAA
JAPAN PATENT ATTORNEYS ASSOCIATION
日本弁理士会
r100
古紙配合率100%再生紙を使用しています。 PRINTED WITH SOY INKTM

秋 号

日本弁理士会広報誌

2004

第35号

特集

2004

「弁理士の目」 記念事業開催

大阪
OSAKA

▼イベント会場でのパフォーマンスショー



「知的財産ふれあいフェスタ」が、弁理士制度並びに知財制度の普及を目的として、平成16年7月3日に大阪ビジネスパーク内のIMPホール（講演会）及びヴィン21ギャラリー（サブイベント）で開催されました。

講演会は、内閣官房 知的財産戦略推

進事務局長の荒井寿光氏による基調講演「企業も国家も知財戦略の時代」により始まりました。基調公演の内容は、知的財産推進計画2004、信託制度の活用やベンチャー企業の知的財産の保護、知財人材の育成の重要性、弁理士を取り囲む時代の流れなど多岐に亘り、参加された方々は熱心に聞き入るとともに、ときおり笑い声もあがる和やかな雰囲気の中、基調講演でした。

基調講演の後、明和電気トークショーを開催しました。「明和電気」は、吉本興業に所属する1993年結成の現代アートユニットで、オリジナルの楽器等を製造し、それらを使用したライブ、展覧会、CDやビデオ製作などを行っています。今回のトークショーは、「明和電気」の成り立ちの説明から始まり、彼らの「製品」の紹介や、実際に「製品」を特許出願することを考えたとの秘話も紹介され、来場者は、彼らのパフォーマンスに熱い拍手を送っていました。

九州
FUKUOKA

▼講演会の様子



九州では、福岡市の中心街にある「アクロス福岡」で無料特許相談会と講演会が開催されました。

この開催に先立って、30代、40代前半の新進気鋭の弁理士を主体とする九州部会運営委員会は、弁理士制度や知的財産の普及・奨励を図る絶好の機会と捉え、綿密な計画を練り、精力的に広報活動を行いました。

講演会は、知的財産について易しく解説した「発明って何？商標って何？」、弁理士の仕事ぶりを紹介する「弁理士の1日」の2つのテーマについて午前と午後のそれぞれに行われ、講師の弁理士の熱心且つ分かりやすい講演により多くの参加者に「有益であった」との評価を頂きました。

参加者は企業の方々と個人の方々が約半々で、全体で約40名が来場されました。



▶会場の様子

東京
TOKYO

東京では昨年続き日本弁理士会中央知的財産研究所が主催する公開フォーラムが開催されました。

日本弁理士会中央知的財産研究所は、平成8年創設以来、研究成果を重ねて来ました。当研究所は、弁理士はもとより、国内、国外の産官学等の英知を結集し、知的財産諸問題や弁理士制度に関連する諸テーマを調査研究し、成果を外部に発信することにより、斯界の発展に寄与しようとするものです。

これまでに、13の研究テーマについて、研究部会を構成し、研究報告を発表しています。現在も、5つの研究部会において、最先端の知的財産権に関する研究を継続しています。

今回のフォーラムは、一般の方240名を含む406名の多数の参加者を得ました。

基調講演Ⅰは、「これからの知的財産で保護すべきもの」研究部会の相澤英孝

（早稲田大学アジア太平洋研究センター教授）主任研究員により、「これからの知的財産法を考える」というテーマでの講演でした。知財高裁から自動公衆送信、ユニクロ、データベース保護と広範囲に亘り、軽妙な語り口に聴衆が聞き入る中行われました。続いての外川英明弁理士（株）東芝による「物のパ

▶講演会「特許エンターテインメントセミナー」の一幕



講演会の部の締め括りには、「劇でわかる特許セミナー」と題して、弁理士が演じる劇仕立てのセミナーを開催しました。このセミナーは、知的財産支援センター第1事業部の企画として、昨年の11月に群馬で、今年の2月に名古屋で開催されています。今回は、台本を一部書き替えるとともに大阪弁を基調として行いました。要所で笑いをとることもできるなど、スムーズな実演でした。

一方、サブイベントは、ステージでのショー、ロボットデモンストレーション、弁理士クイズの三本立てで行いました。

ステージショーとしては、マルチコミックパフォーマンスのME、オクチによるパフォーマンス、風船などを使った科学実験、鉄腕アトムショーが2回ずつ行われ、親子連れで賑わい、近くのカフェやギャラリーの吹き抜け上階の通路からも多くの人が観覧していました。

ステージ横のロボットコナでは、奈良先端科学技術大学院大学で開発された人と会話できる受付ロボットのASKAなどが多数の人の興味を惹き、子供から大人までロボットとのふれあいを楽しんでいました。

名古屋
NAGOYA

▼知財セミナーの様子



7月3日（土）にナディアパーク（名古屋市中区栄3丁目）のデザインセンタービル6階にて、弁理士の日記念イベントが開催されました。

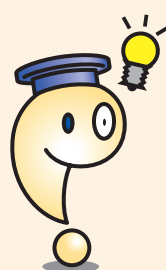


▶特許庁電子図書館の体験

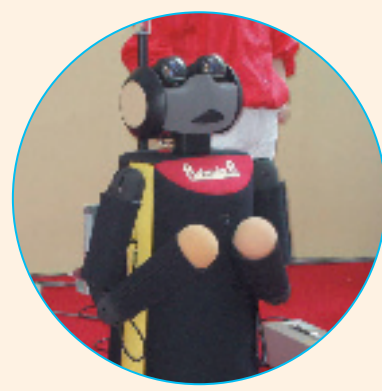
今回は、計6コマの知財セミナーが行われるとともに、休日無料相談会（弁理士5名常駐）や特許庁電子図書館の検索体験コーナー（パソコン8台・操作指導弁理士8名常駐）、パネル展示・ビデオ上映ブースも設けられました。当日は最高気温が33度を超える暑い日であったにもかかわらず、本年も260名もの来場者を迎え、大盛況でした。知財セミナーについては、2つのセナールームを用い、一方では特許関係（権利行使を受けた際の対応、職務発明、明細書の書き方、もう一方では意匠・商標・著作権関係のセミナー）が行われ、いずれも予定時間をオーバーするほどの熱のこもった講演や質疑応答が展開されました。無料相談会では20組の相談があり、検索体験コーナーもフル回転でした。



▶パネルディスカッション



▼イベント会場での鉄腕アトムショーの一幕



▲イベント会場でショーを演じるRobovie.R